

裏路地探険

竹野川の下流、かつては城崎温泉へとつながる鑄物師炭峠への入り口であった豊岡市竹野町羽入。地名の由来は定かではないが、地元の言い伝えでは埴輪を作る集団がいたことからその名が付いたのではないかとされている。

近くの鬼神谷地区では須恵器の窯跡が見つかり、周辺には21もの古墳が確認されていることから、古くから技術を持った集団が住んでいたであろうか。

古代は今より海水面が約7メートル高く、辺りは入り江だったと考えられており、集落から突き出た山の先端は、岬を表す「山崎」と呼ばれている。元々は集落から少し山に入った「杉ノ谷」と言われる場所に集落があったそうで、海水面が下がるにつれて今の集落が形成されていった。



本尊に十一面観世音菩薩を祀る「荊木山 観音寺」は701年に行基が開創したと伝わる真言宗の古刹。明治初年に再建された本堂は彫り物も立派な建物で、荘厳な雰囲気を出している。脇には位の高い人物のものと思われる「供養塔」が佇む。



釈迦涅槃図



舟の係留に使われた「舟止め石(上右)」。蛇頭古墳の横穴式石室の石板。



集落から観音寺に上がる参道の途中には但馬六十六地藏尊13番のお地藏さん(左)がある。境内墓地内の「宝篋印塔(右)」は南北朝時代のもので、市の文化財になっている。



集落の中心にある公民館(左)とかつての芝居堂(右)。芝居堂では田植えの終わった「さなぼり」等の際に、村歌舞伎や芝居が披露された。梁には彫り物が残り、農村舞台の面影を感じることができる。

中世には一大霊場として栄えた歴史ある村
風習や言い伝えが農村の暮らしを今に伝える
どこか懐かしい小さな村をのんびりと歩く

家々の背後にある山は荊木山。中世には山腹にある「観音寺」を総本山として、山岳信仰の一大霊場として栄えた。かつては10を超える僧坊(修行僧が住む建物)があったそうで、山すそは建物跡が棚田状に広がり、修行僧が仏道に励んだ往時の面影を偲ぶことができる。

但馬西国33番観音第32番札所でもある古刹で、南北朝時代のものでとされる8基の「宝篋印塔」や、巨大な「釈迦涅槃図」といった貴重な文化財を所蔵している。

「涅槃図」とはお釈迦様が入滅(じくなること)される様子を描いたもので、寛保3年(1743)、地元の吉岡新左衛門によって寄贈された。繊細な描写はもろんのこと、その大ききから見る者を圧倒する迫力がある。

「この絵の素晴らしい所は田んぼ

国産車・輸入車・中古車、車検・整備全般

指定民間車検工場 クルマのことならおまかせ下さい



北陽工業株式会社

豊岡市竹野町
竹野 2841-1

TEL 0796-47-1101 FAX 0796-47-1847
Email hokuyo@poem.ocn.ne.jp



北陽石油 ☎0796-47-0219

